

# 住民守る防災対策を

県議団と  
里見氏 災害時の司令塔を視察

名古屋市

南海トラフ巨大地震などに備えた防災・減災対策に取り組む公明党愛知県議団(木藤俊郎団長)はこのほど、県自治センター(名古屋市)にある県災害対策本部室と災害情報センターを視察し、災害時の態勢について説明を受けた。これには、里見りゆうじ党労働局長(参院選予定候補)愛知選挙区も同行した。

災害対応の司令塔となる両施設は昨年3月、県庁舎から自治センター6階に移転し、スペースを大幅に拡充。総面積は1661平方メートル(従来の2.3倍)で、総勢500人(同2.5倍)を配置できる。災害時には関係機関が集まり、県の防災情報システムを活用した各市町村からの被害情報の収集や被災者への迅速な対応などを行う。



災害情報センターで説明を受ける里見氏(右から3人目)と愛知県議団

視察後、木藤団長は「国と連携し、防災計画の確実な実施をめざす」と意欲を示し、里見氏は「住民を守る防災・減災対策に全力を挙げる」と決意を語った。